



## 外国出張報告書

平成27年9月30日

1. 出張国名 エチオピア、ブルキナファソ
2. 出張月 平成27年8月
3. 出張目的
  1. CDM 事業計画書(PDD)の事業実施による土地利用変化(Leakage)および植林の村落における経済性に関する調査 (気候変動対応)
  2. 土壌保全型土地管理技術の開発 (植林, グリーンベルトの導入) におけるペトロフェリックス層地帯の樹木等植生分布に関する調査 (FS 調査): A

#### 4. 成果の概要

平成27年8月1日から14日までの間、エチオピア国ティグライ州において、クリーン開発メカニズム(CDM)を活用した植林活動を実施した際に想定される他所へのリーケージ (プロジェクトに起因したプロジェクト外でのCO<sub>2</sub>等排出の増加) の可能性を検討するため、主に農村部における薪採取の現状を数量的に調査した。また、農村部で植林活動を行う際の経済的便益を図るため、既存の小規模植林農家を対象とした収益性の調査を行った。

8月14日から8月28日までの間、ブルキナファソ国クドゥグにおいて、ペトロフェリックス層における残存樹木の分布に関する調査をトランセクト法により実施し、樹木出現頻度の変化を明らかにした。

持続的農業生産のための流域管理モデルの構築を目標とした次期中長期目標計画期間の研究プロジェクトのうち、土壌保全型土地管理技術の開発における植林、グリーンベルトの導入に関する課題を明らかにするため、現存する樹木等植生の分布状況を直接把握する樹木毎木調査を行った。